



Fグループ会報

No.27
〒231-8651 横浜市中区山手町68
フェリス女学院大学
音楽学部同窓会Fグループ

緑濃い丘の上で

学院長 小 塩 節



同窓生の皆さんは、フェリス女学院の第2キャンパスである緑園校舎をご存知ない方が多いでしょう。緑の丘の斜面をうまく利用して造成されたキャンパスに、若い学院生がビチビチ溢れています。植えられ、育てられている樹木が、現在2000本に及び、いかにも緑の園という感じです。

音楽学部の学生は、文学部生ともども、1・2年生は緑園で学び、3・4年になると山手に移ってきます。その山手の緑も昔と変りません。

港の見える丘公園から山手本通りをフェリスに向かう道は、異国ふうのしゃれた建物が通りに面しているだけでなく、水の乏しい丘の上なのに意外に豊かな植生の緑が人をひきつけてやみません。緑園の並木道と山手の道を昨年秋から歩み始めて、私はつよくそう思います。

海が近い温暖な土地ですから、いかにも日本らしい椎の木やタブノキ（楠の一種）が多く、桜もみことなのは当然として、ここに特に多いのがヒマラヤ杉。明治11／12年に英国人ブーク氏がインドから、ヒマラヤ地方原産のこの木の種子を取り寄せ、この土地で苗をつくり、30本を宮内庁に献上、100本を新宿御苑におさめたときの

仲間とその子らです。悠々と裾枝を低く張り、円錐型の形姿美しく、常緑の梢にはいつもさわやかな風が吹き渡っています。フェリス・ホールとその先の中高のネオ・ゴシックの建物によく合っていて、ヒマラヤ杉を見ると心がおどります。

この木のようにさわやかな音楽学部——、これはフェリスにとって大事な学部です。大学院も備えられており、歴代一流の教授陣、すぐれた学生たち。ここは女学院の誇りであります。芸術の香りが立ちのぼり、さわやかな音楽となってひびいています。そのかけにさびしい練習がある。それだけではありません。ここでは、大バッハが言いましたように、神賛美と人間精神再創造のために朗々たる音楽がかなでられ、歌われています。

学校経営という味気ない、しかし深刻な立場からすると赤字を生む子どもかもしれない。でもたとえていえば慶應義塾大学における医学部のような存在であり、いわば看板娘のですから、全学院がこれを誇りに思い、支えているのですね。これからも次々と本物の音楽家たちを世に送り出していくであります。

(おしお たかし)

5月31日 1998年度Fグループ同窓会総会開催される

今年の総会は、5月31日日曜の午後、横浜の崎陽軒にて開かれました。会場には、渡邊 明音楽学部長をはじめ、三宅春恵先生、中田喜直先生などお出で下さり、またたくさんの初々しい新卒生も招かれ、総勢81名が参加しました。

▼ 会長のごあいさつに始まり、各支部からは
昨年度の支部活動が報告される



◀ 渡邊先生、学部の近況—大学院が開設されたこと、学生合唱メンバーがドイツに演奏旅行したことなどについてお話を聞く

◀ 中田喜直先生の楽しいお話に
三宅春恵先生も思わず爆笑



▲ 新卒生の初々しい演奏の数々



▲ 最後は恒例の“夏の思い出”大合唱

Fグループの皆様へ

Fグループ会長 中田 喜 直

再び会報をお届けする季節になりました。

皆様お元気でお過ごいでいらっしゃいますか。昨年6月より新しい役員で出発したFグループも、あっという間に一年が過ぎてしまいました。その間の活動はこの会報をお読みいただければお分かりになることと思います。毎月第一木曜日を役員会と決め、次々に出てくる課題に役員一人一人が良く考えながら意見交換も活発に取組んでおります。同窓会の大きな二つの目的（卒業生のため、学校のため）がいつもバランス良く保って行くように努力することも役員の仕事と考えております。

昨年10月、フェリス女学院は学院長にドイツ文学博士小塩 節先生をお迎え致しました。音楽を学ぶ私たちにとってこんなうれしいことはありません。Fグループでは10月3日の研修会に小塩先生をお招きして『わが愛する音楽家たち』モーツアルト、シューベルトを中心にお話ををしていただくことになりました。魅力的な低音のお声と、ユーモアたっぷりなお話の中にぐいぐいと我々をひっぱって行ってしまう小塩先生、そしていつも心にしめる歌を聴かせて下さる朝倉蒼生先生、ほのぼのと暖かいピアノの黒川 浩先生とこんな贅沢な研修会を今年は計画致しました。その他11月3日にはフェリス祭に参加してお茶葉子付きサロンコンサートや11月27日の新卒業生をお仲間に迎えたジョイントコンサートなど秋にふさわしい企画をたてております。一人でも多くの同窓生がお見えになることを心からお待ちしております。

そしてお目にかかる日を楽しみに……

Fグループ 秋の研修会への お誘い

今年のFグループ研修会では、フェリス女学院学院長、そしてドイツ文学者でおられる小塩 節先生を講師としてお招きします。音楽をこよなく愛される小塩先生。今回は特にモーツアルトとシューベルトの詩と音楽の世界についてお話を聞く予定です。又特別ゲストとしてソプラノ歌手、朝倉蒼生先生、ピアニスト、黒川 浩先生をお招きしています。10月秋の夕べ、ご友人をお誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

「わが愛する音楽家たち～詩と音楽～」

特別演奏 モーツアルト／すみれ

シューベルト／野ばら

グレートヒエンの祈り

シューベルト／即興曲 作品142の2

作品30の4

日時 1998年10月3日(土) 午後6時30分より

場所 フェリスホール 会費 ¥1,000

問合せ Fグループ同窓会事務局

Tel/Fax 045-681-6740

海外から見たより パリ→鎌倉

音について

ここ数年来、生徒達の卒業試験と学内試験を済ますと、夏休みを日本で過ごすというパターンが習慣になっていく。室内樂のコンサートや講習といった仕事も兼ねて、大半は梅雨明け少し前頃に日本に戻って来る。鎌倉市のはずれの山上にある家はこの時期、雑木林を背に緑に囲まれ、日頃パリの中心部のアパートに暮す私は、あまりの風景の違いと、時差ボケが重なり、数日間はボーッと過ごしてしまうのである。その様なわけで、しばらくの間は夜明けとともに目をさまし、朝の東の間の静けさの中に身を置いて、葉のそれ合う音を聴いたり、梅雨が目に見えない細かさで空気中に散っているのを肌で感じたり、めったに姿は見せない鳥達の声に耳を澄ませたりという時を過ごすのが常である。そしてこの自然の違いや美しさに慣れてしまうまでの一時を、私は大切にしている。それにしても、このしつとりとヴェールを被った様な感覚というのは日本独特なものである。音の伝達には空気の震動が必要であり、湿気を含んだ空間では響きは伝達し難く、又木の様に音響にとって理想的な素材も一旦湿気をおびれば、音の伝達の媒体にならない事は承知の通りだ。日本へ帰った当座いつも気になる事に、日常生活に非常に音が多いという事が挙げられる。広告や物売り、駅でのアナウンスとあらゆる場所でスピーカーから音が間断なく流れている。これはヨーロッパの町では考えられないことである。湿度の低い、石造りの町では、音は響き渡り、互いに反響し合って、きっと耐え難いものになってしまうだろう。それが日本の様に湿度の高い国では、音は遠くまで伝わる前に吸収され、響き渡るには至らない。その為か、思いの外多くの音を聞き流す事が可能なのである。この様な土地に於ては、自ら音に対する感性、又聞こえて来る音の種類や透る音質が変わってくるのは不思議ではない。そしてこの湿度という要素は、日本人の持つ音のコンセプトや好みの傾向に少なからず影響を与えてる様に思う。

例えばピアノの音で表してみよう。一般的に聽かれる

堀中・モンティ・倫子 (22回)

音、好まれる音は、明解、且つ直接的で硬質の、速いアタックから生まれる乾いた音である。ここでは音と音を繋ぐ空間を満たす響きを聽く事より、打鍵時に聞こえる音に注意が払われる様に思われる。この数十年の間に、楽器の音質やメカニックが改良され、ホールや個人の音響空間にも特別な配慮がされる様になってしまって、この傾向はあまり変わっていない様だ。これがヨーロッパの乾いた地では、硬質な音は、それ自体のアグレシブな性格が助長される為、特殊な場合を除くとあまり歓迎されない。音量と関係なく、アタック時の衝撃音を柔らげ、後に続く響きに、豊かさ、深み、陰影といったものを求める事に重きが置かれるのである。こういった細かく計画された音質による変化は、速いアタックからは生まれ難い。鍵盤にかける圧力を自由自在にコントロールして創り出す音は、微妙なニュアンスで、響きの広がりと伴に耳まで確かに伝わって来るのである。しかし、ここで注目したいのは、奏法の違いと音質の関係という事ではない。重要なのは、耳にこの様な微妙な変化を聽き分ける用意が出来ているかどうかという事なのだ。日本の様に自然環境が、聴くという行為を容易にしてくれないのであれば、それ故に、日頃からもっと音に対して敏感に反応したり、耳を澄ませて聴くという習慣を持つ事が必要になってくるのではないだろうか。

音とは耳が創り出すものである。それは先ず、各々の内に、求める音を聴く事に始まり、感動の表現、延いては自己表現に一番ふさわしい音を、一音一音創り上げていく事なのである。そうした音への果しない希求が、奏法をも生み出してくれるのである。自分の内に確かに聴く事が出来る響きこそが音楽となって残り、人々の耳まで届くのである。

堀中さんは、短大専攻科一卒業後、フランスに渡り、現在は、クロード・ドビュッシー音楽院のピアノ科主任教授として後進の指導にあたっていらっしゃいます。

今、大学院で再び学ぶ

継続は力なり!

私達、音大を卒業した者にとって永遠のテーマである“音楽を学び続ける”について、今春から開設された音楽研究科修士課程声楽専攻に入学した河村真理子(38回)さんと吉田美江(36回)さんにお話を伺ってみました。

Q 大学院での生活はいかがですか?

河村 学部に比べて一般教養が少なく、プロを志す者を対象とした実技関係の授業が多く、非常に充実した毎日を送っています。

吉田 私の場合は、加えて教職課程(中学・高校教諭一種免許状)も取っており、忙しく過しております。

Q ところで、お二人ともフェリスの短大音楽科を卒業されたのちに、三年次編入で復学されたそうですが、なぜ音楽の勉強を再開しようと思われたのですか?

河村 私は短大卒業後、しばらく歌から離れていたのですが、ある年のFグループの同窓会に出席した折り、先輩方の御活躍を拝見し、刺激を受け一念発起しました。

吉田 短大卒業後、音楽教室の幼児科で子供達に教えていて、自分自身も中途半端な勉強ではいけないと想い、編入試験を受けました。当時はフルタイムで働いていたので練習時間のやり織りに苦労しましたが、時間が少ない分、密度の濃い練習ができたように思います。

Q 河村さんは編入後二年間で教職課程を取られたそうですがいかがでしたか?

河村 一度社会に出ていることもあり、年相応の理解力を要求されることが多く、プレッシャーを感じました。しかし、幅広い教養を得ることができ音楽を続ける上でもプラスになった様に思います。

吉田 そうですね。私も短大時代に取得した教職が卒業後、音楽を教える上、又人と接する上でも大変役に立ちました。

Q 音楽を続けてこられた原動力は何だったと思われますか?

河村 私は、ずっと遠い将来、独ばっちになったとしても(笑)、自分が自信を持って貢献できる確実なものが欲しくて、ここで学び直しているのです。短期間で取得しようという根性が今は原動力ですね。

吉田 私はまず、好奇心が強いということが原動力かもしれません。学びたい、向上したいという意欲は次の世代を育てる上でもとても必要なことだと思いますし、純粹に音楽の中にひたってみたいという気持ちもありました。

Q 同世代の女性に対してメッセージは?

河・吉 音楽で活躍されている諸姉も多い中、きっと日々の生活の忙しさに追われて、なかなか音楽と対峙する時間が持てないと想いますが、“千里の道も一步から”とは良く言ったもので、一日の流れの中ではほんの少しでも向き合う時間を作ってほしいと思います。私達もただ学びたいという気持ちから始まったことが、修士課程まで来てしまい驚いているのが本音です。母校に帰って来て、諸先輩や先生方に暖かく見守って頂き、大変感謝しております。

Q 最後に、今後の抱負は?

河・吉 来年2月に院の一学年目終了演奏会があり、それに向け生徒同士でプログラムなど考えています。内容の濃いものにしたいと、一同日々励んでおります。Fグループの諸姉の皆様方に足を運んで頂き、私達の成果を見て頂くとともに、御指導御鞭撻を賜りたく存じます。

秋のティータイムコンサートのご案内

♡第1弾 Fグループ ティータイム・コンサート

八木英子(5回)・雨宮節子(3回)を囲んで 伴奏 和田典久

日 時 9月17日(木) PM2:00~3:30
場 所 フェリス女学院大学同窓会室(6号館 第1別館)
会 費 1000円 定員 50名(申込先着順)
曲 目 ショパン作曲 ノクターン OP27-2・バルカラール OP60 他
「桜んぼの実る頃」「聞かせてよ愛の言葉」他

申し込み先 佐々木あつみ 045-432-7143/井上眞記子 0467-77-1463

前半は八木英子さんのピアノ演奏とお話、後半はお茶を飲みながらシャンソンの名曲を楽しみませんか。

♡第2弾 フェリス祭 ティータイム・コンサート

お茶とお菓子と音楽と

日 時 11月3日(火・祝) PM1:00~1:30 PM2:30~3:00
場 所 フェリス女学院大学同窓会室(6号館 第1別館)
お茶代 500円

昨年のフェリス祭ではじめて開催し好評をいただいたティータイム・コンサートを今年も開きます。お茶とケーキを召し上がりながら、Fグループ同窓生による多彩な演奏をお楽しみ下さい。出演は、田内恵美(39回・チェロ) 海野美栄(44回・ソプラノ) 重田麻木(47回・ソプラノ) 藤村彩子(45回・ピアノ) 他の方々を予定しています。山手の秋の午後、グランドピアノの入った新しい同窓会室でお待ちしております。

お問い合わせ Fグループ同窓会事務局 045-681-6740

Fグループ 支

部 だ よ り

f 北支部

北海道で初めてのフェリス女学院大学特別説明会が、6月28日(日)にヤマハ札幌店で催されました。「同窓会も後でありますから手伝いに来て下さい。」と工藤羊子さんから連絡を受けた時は、びっくりしました。なぜなら文学部からは三田村雅子先生、末岡実先生が、音楽学部からは、渡邊明先生、岡島雅興先生、黒川浩先生が揃って来道なさるのですから。説明会は5時半から始まりました。お客様は疎らではありましたが、皆さん真剣に聞き入っておられました。まず、ビデオ上映があり、続いて三田村先生の「源氏物語の読者たち」と題して講演がありました。興味深いお話しで学生に戻ったような気分を味わいました。休憩の後、黒川先生のピアノ独奏がありました。ショパンなどの小品を5曲弾いて下さいました。演奏されるお姿も魅力的で見とれてしましました。次に渡邊先生が、日本歌曲を3曲とシャーベルトのリート2曲を独唱なさいました。詠めぐり担当だったので緊張しつつ、うっとり聴かせていただきました。この後、岡島先生などによる各学部の説明がありました。私の中では4年制大学になり距離的にも遠いフェリスでしたが今のこと改めて誇りに思える大学となりました。道内ではあまり知られていないフェリスですが、これからもっと特色を知ってもらえるよう活動していくたら、来年は先生方と同窓生とのコンサートを予定しています。



フェリスの先生方と

最後になりましたが、お忙しい中、札幌までいらして下さった三田村先生、末岡先生、渡邊先生、岡島先生、黒川先生(苦手な飛行機で来て下さいました。帰りは、しっかりJRでしたが……)、そして準備に多大なお力を貸して下さった入試部長の宗施月子先生にお礼を述べさせていただきます。ありがとうございました。

(報告/坂本真理子)

クリスマス礼拝のご案内 ☆☆☆☆

日 時 12月12日(日)午後1時30分～
会 場 カイバー記念講堂
説教者 駒込教会 菊間俊彦牧師
ハンドベル 中・高ハンドベルクワイア
奏 楽 伊藤多恵子(10回)

主 催 フェリス女学院全同窓会(りてら・りべる・白菊会・Fグループ)

今から予定にお入れ下さい、どうぞお気軽にお友達・ご家族お誘い合わせてお出かけ下さい。

尚、昨年のクリスマス献金は、226,661円でした。

献金先

ユニセフ協会 70,000円
日本キリスト教海外医療協会 70,000円
日本医療伝導会衣笠病院 86,661円
その他外貨はユニセフ協会へ献金致しました。

f 中部支部

fグループ中部支部は同窓生が235名の大きなグループになってきました。今一度会をきちんとしたものにしようと秋の総会に向けて準備しています。

年に3回コンサートを開いています。まず6月に卒業したばかりのフレッシュな同窓生によるコンサート。年々演奏もりっぱなになっています。ただFグループの意味を知らない方が多いので今後わかるようにしていくつもりです。



ふれっしゅ・コンサート(6.26 ザ・コンサートホール)

秋には毎年違ったタイトルの演奏会。昨年は「ゲーテの詩によるシャーベルト歌曲」芳野先生と同窓生の大橋多美子さんのジョイントでした。今年は「10月生まれの作曲家」。毎回出される支部長に役員一同感心しております。ただこの演奏会は演奏者・伴奏者への出演依頼、日程調整等に大変な作業がたくさんありますので春には動き始めなければいけませんし、ホールの予約は一年前ですので休んでいる暇はありません。

学年末の春にはジュニア・シニア・コンサート。それぞれFグループの生徒さん達の合同コンサートです。松坂屋ホールをお借りして出演者の多い時は、一日中演奏が続きます。

今年は常々大学から先生に来ていただいて地元の高校にご挨拶に行きたいと思っていた事が実現しました。毎回同窓会としては向っていたのですが今回芳野先生に無理を言って御一緒していただいた事で、フェリスとそれぞれの高校に太いパイプができる事を実感しました。少子化がさけばれていますがフェリスのムードが変わらないまま実力のある大学としてますます発展していく事を切に望みます。同窓生としてフェリスを大切に思う気持ちを持っていてくだされば、その気持ちをきっと受取希望者や高校に伝わると思います。

最後に今回はFグループ本部、会長さんには特にお世話になります、同窓生としての力を痛切に感じました。ありがとうございました。(報告/副支部長 牛込まり)

f 関西支部

昨秋第4回の同窓会を行いました。当日は座談会の形をとり会の規約をきめたり今後の方向性を話し合いました。思い出しと現状報告とおいしい湯葉料理は脱線しそうなことを除けば、お互いの年令の差を埋めて余りある程有意義かつ楽しい3時間でした。その後今年4月には遅ればせながら会の報告を兼ねて参加出来なかった方に同じ議題についてのアンケートを行いました。その中で一番の要望は「音楽を学んだ者として仲間を作り勉強を続けたい」と言うことです。勿論レッスンを続けたり活躍中と言う方もいらっしゃいますが多くの方はお一人でいろいろな入口のドアを開けたり、迷ったりとまどり悩んだりとのご様子が同えました。会としてはまず音楽講座や公開レッスン等の情報を少しずつから連絡していく事をはじめます。会員の数や地域性その他を考慮して関西支部は無理をせずに出来ることから少しづつ長く続けて行けたらと思っております。

5月31日Fグループの総会に支部長として初めて出席

し、各支部の熱気と活発な御活動に本当に圧倒され感激を受けました。諸般の事情で同じような事は現在はできませんが、大いに参考になりました。

今秋の同窓会は少しでも多くの方の前の発表の場をつくろうと言う事でフェリス関西支部(中・高・短・大)と合同の会を計画しております。4月に開通したばかりの明石大橋を見ながら(個人的に御尊敬申し上げる)小塩節学院長の講演とFグループ会員の演奏と言う本当に楽しみなプログラムを予定しております。御一人でも多くの御出席とご協力をよろしくお願い申し上げます。

(報告/支部長 崔順子)

f 九州支部

皆様、御健勝でお過しの事と存じます。

九州支部は、スタッフが新しくなって早や二年目。御陰様で元気に活動させて頂いております。私共、学生時代にたくさんの事を学び、多くの貴重な経験をする事ができ、今でも感謝の気持ちでいっぱいです。支部としては、勉強を続けておられる方々に、ささやかでも何かお手伝いができるべきと思っております。

さて、今年度の同窓会(ミニ・コンサート、総会、会食)を去る5月28日(木)に日航ホテル福岡で行ないました。出席者は40名足らずでしたが、とても贅沢な広い部屋で、暖かな雰囲気の中ゆったりとした一時を共に過ごす事が出来ました。又、学部長の渡邊明先生をお迎えして、現在の音楽学部の状況をお伺いし、学生の皆様がとても羨ましくさえ感じました。そして、ミニ・コンサートでは素敵な歌声を聴かせて頂きました。このミニ・コンサートに出演して頂く方がもっと増えて、又、前回の様に同窓会主催の演奏会を行いたいと思っております。

この同窓会が、学生時代の様に熱く、夢中になって、一人の女性として、妻として、母として、音楽に対しても生活をする事に対しても、生き甲斐を持って日々が送られる様、お互いを高めあえる場になればと思います。同窓会としても一層の努力をして行きたいと願っております。

(報告/支部長 伊藤和子)

新しい会ができました

"Adagiettoの会" 発足

昨年の平成9年6月に、作曲・音楽史更にこの二つの学部を一つにした楽理学科の卒業生の会 "Adagiettoの会" を発足致しました。

年1回の会合により、多方面にわたり活躍されている卒業生の皆様の親睦を深め、又年1回の会報を通して、会に出席出来ない方達とも交流をはかりたいと思っております。

今年6月21日には、中田喜直先生をお迎えして、第2回目の "Adagiettoの会" を開催致しました。今回は27回生の中村千保美さんに、7年間過ごされたインドネシアでの体験を通してのお話ををお願い致しました。

——「おっかなびっくり南の国」を近代文芸社より出版されています—— 手作りのインドネシアのおせんべをお持ちいただき、音楽のテープ、楽器などを交えて、大変楽しいお話を伺いました。遠く九州からも出席していただき、3時間にわたる和やかな会もあっという間に終了致しました。又来年も楽しい企画を考えております。是非皆様の御参加を、お待ちしております。

竹並 信子(16回)

♪コンサートの お知らせ♪



日 時 11月27日(金) PM6:30 開演
 場 所 フェリスホール(山手校舎)
 会 費 2,000円

出演者・曲目
 枝野 朝子(40回) ○声楽 / 伴奏 奥 千歌子
 「ジブリーの歌」(ドヴァルザク作曲)

渡辺 泉(46回) ○ピアノ
 組曲「展覧会の絵」(ムソルグスキー作曲) より

日野 智子(34回)/谷口 直子(26回) ○ピアノ連弾
 幻想曲「短調 D940」(シューベルト作曲)

栗原 利佳(47回) ○声楽 / 伴奏 鶴 真希子
 オペラ「トゥーランドット」(ブッチャニ作曲) より
 「お聞きください」他

安藤 江浪(32回) ○ピアノ
 さすらい人幻想曲(シューベルト作曲)

小林美代子(11回) ○声楽 / 伴奏 駒村 美佳
 金子みすゞ詩による童謡歌曲集
 「はしたんぽぼ」より(中田 寿直作曲)

お問合せ Fグループ同窓会事務局 045(681)6740

慶 祝

小塩 節 学院長
 1998年3月22日 ゲーテ賞受賞

弔 慰

1997年9月2日 井上 純子(7回) ご逝去
 1998年5月11日 三田 陽子(6回) ご逝去

~声楽アンサンブルへのお誘い~ メンバー募集中

宗教音楽を中心にアンサンブルを
 楽しんでいます

Fグループの会員を中心として始められた合唱団で、只今団員を募集しております。多くの方々の参加をお待ちしております。

指導: 宝福英樹 先生
 練習日: 毎週金曜日 AM10:00~12:00
 練習所: フェリス女学院大学同窓会室
 (山手6号館第1別館1階)

お問合せ: 齊藤合子
 桑島実穂
 (Fグループ合唱研究会)

Fグループ 後援演奏会

('98.1~11)

・三宅春恵ソプラノリサイタル~80歳を記念して~
 共演-井上直幸(pf)
 98.4.15 福岡銀行本店大ホール
 4.20 紀尾井ホール
 4.24 ザ・コンサートホール

・ジョイントコンサート
 安波裕子(24回) 永松貞世(24回) 伊藤和子(24回)
 松上京子(24回) 安部まり(34回)

98.5.22 あいれふホール

・デュオリサイタル 大島富士子(28回)
 共演-インゴマーライナー

98.9.19 神戸ヤマハサロン3F

9.23 こだま(信州国際音楽村)

10.4 音楽の館ホール

10.7 あいれふホール

10.30 角筈区民ホール

・大島君子ピアノ演奏会 大島君子(3回)

共演-N響ソロイスト

三浦章広(Vn) 井野進大輔(Va) 藤村俊介(Vc)

98.10.4 横浜みなとみらいホール小ホール

・APRES UN REVE 愛のあとに
 大橋多美子(20回) 共演-藤江博子

98.10.29 しらかわホール

・齊藤京子ソプラノリサイタル 齊藤京子(34回)

共演-ジェフ・コーエン(pf)

98.10.15 カザルスホール

・江口元子連続30周年記念リサイタル 江口元子(4回)

共演-ダルトン・ボールドウィン(pf)

98.11.7 サントリーホール小ホール

後援演奏会について

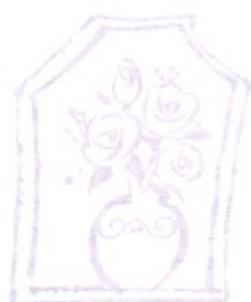
演奏会の後援については次のように定められています。
 1) 同窓会は、常に向上心にあふれた会員の演奏会を後援する。

2) 後援は、フェリス女学院大学音楽学部同窓会関係者(同窓生、職員他)を対象に行うものとする。

3) 後援の依頼は、所定の用紙に記入の上、演奏会の2ヶ月前までに執行委員又は事務局に提出すること。

4) 後援の許可は役員会に諮り決定され、「後援-フェリス女学院大学音楽学部同窓会」と、記述することができる。

5) 上記以外に関しては、その都度役員会で決定する。



1997年度 Fグループ 会計報告

(1997年4月1日~1998年3月31日)

収入の部	予算額	決算額
終身会費	4,800,000	5,800,000
総会会費	280,000	252,000
研修会会費	100,000	99,500
ティータイム会費	0	39,400
ジョイント・コンサート	400,000	308,800
宛名シール	20,000	16,560
フェリス祭		35,800
雑収入	40,000	18,956
銀行利息	2,000	5,111
小計	5,642,000	6,576,127
前年度繰越金	439,620	439,620
収入合計	6,081,620	7,015,747

支出の部	予算額	決算額
日運営費	[1,131,000]	[767,528]
会議費	0	0
印刷費	45,000	0
通信費	10,000	0
手数料	1,000	0
人件費	336,000	343,000
交際費	35,000	30,660
事務費	80,000	56,048
出張費	180,000	31,400
交通費	273,000	246,000
学年幹事費	76,000	47,800
特別委員会費	0	0
雑費	70,000	0
予備費	25,000	12,620
I活動費	[3,940,550]	[2,718,648]
総会関係費	1,207,500	889,135
研修会関係費	415,000	359,928
ティータイム関係費	240,000	149,781
会報関係費	586,000	566,083
ジョイント・コンサート	530,000	232,703
リサイタル後援費	201,050	100,577
支部関係費	361,000	260,720
慶弔関係費	300,000	87,520
フェリス祭	100,000	72,201
予備費		
③諸会費	[370,450]	[370,315]
全同窓会会費	70,450	70,315
維持協力会費	300,000	300,000
④積立金	[200,000]	[200,000]
名簿積立金	200,000	200,000
⑤予備費	0	0
小計	5,642,000	4,056,491
剰余金	439,620	2,959,256
支出合計	6,081,620	7,015,747

定期預金 12,457,349円

貯蓄預金 1,237,164円

名簿積立金 1,351,519円

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

1997年度フェリス女学院全同窓会会計報告

白菊会・りてら・りべるて・Fグループ

(1997年6月1日~1998年5月31日)

収入	前年度繰越金	517円
	三菱信託議期解約金	1,619,230円
入	全同窓会会費	280,000円
	利息	757円
	合計	1,900,504円
支出	各支部へ祝儀	60,000円
	クリスマス礼拝関連費	108,309円
出	中島学院長へ記念品	200,000円
	柳瀬房子さん講演会	66,554円
	送料、事務用品	1,785円
	小塩学院長ゲーテ賞受賞祝	100,000円
	合計	536,648円
来年度繰越金	1,363,856円	
	(横浜銀行普通預金)	